

(お知らせ)

2025年8月4日
中国電力株式会社

電気自動車で「再エネ電気を運ぶ」実証試験の開始について

当社は、電気自動車（以下「EV」）を活用し、事業所で発電した再生可能エネルギー（以下「再エネ」）の電気を社員寮等へ“運び”、有効活用するための実証試験を、本日、開始しましたので、お知らせします。

本実証試験では、当社柳井発電所（山口県柳井市）において、実証試験に関わる所員が、新規に配備した通勤用EV（1台）で出社して、発電所で太陽光発電の再エネ電気を充電し、勤務終了後は同EVで帰宅して社員寮へ放電し消費します。

実証試験の実施にあたっては、同発電所に太陽光発電設備（出力6kW）を設置したものと想定*したうえで、充放電の制御には当社が開発を進めるエネルギー・マネジメントシステムを活用します。

同システムとEVを組み合わせた適切な充放電制御を確立することで、将来的には、EVを「動く再エネ蓄電池」として利用し、勤務先の再エネ電気を社員寮や自宅等に“運んで”有効活用することを目指します。通勤時および社員寮や自宅等におけるCO₂排出量の削減に加え、EVからの放電による電力需要のピーク抑制等により、エネルギー利用の脱炭素化と効率化を同時に実現していきます。

今後、2026年1月まで本実証試験を行い、得られたデータを基に、事業可能性について評価することとしています。

近年、企業や自治体に対して、サプライチェーンを含めた脱炭素化が求められており、太陽光発電などの再エネ、蓄電池、EV等の分散型エネルギー・リソースの導入が進んでいます。当社は、こうしたニーズを踏まえながら、本実証試験も含め、分散型エネルギー・リソースを活用した新たなエネルギー・マネジメントサービスの創出に取り組み、お客さま・地域の脱炭素化に貢献してまいります。

*本実証試験では、当社エネルギー・マネジメント研究所（広島県東広島市）に所在する太陽光発電設備（6kW）が柳井発電所に設置されているものと想定します。そのうえで、同設備の実際の発電状況をリアルタイムで把握し、同時刻に同量の電気を事業所の電力からEVに充電します。

○実証試験のイメージ

